

【奨励賞】

「性的マイノリティに関する問題について」

近江八幡市立安土中学校1年 小川 花音

僕は小さい頃から自分に対して違和感を持っていました。

僕の戸籍上の性別は女性です。ですが、自分の中で何か違う、そう思いながら保育園時代を過ごしました。成長する度にその気持ちが大きくなっていき、自分は何なのか分からなくなっていった時、とあるアイドルグループの1人が性同一性障害であることをカミングアウトしている動画を見つけました。どこか共感する所が多く、興味をもち、深い所まで調べていた時、LGBTQ+という言葉に出会いました。

「自分はこれだ!」と確信する瞬間となりました。FTMその言葉を見た時、同じような人も居るんだ、僕だけじゃなかったんだ。と安心感を感じ、どこか底にある孤独感から解放された気分でした。

月日が流れ、次第に男として、俺として生きたい。そんな気持ちが強くなり、不安と緊張の中親にカミングアウトしました。親は最初こそ困惑している様子でしたが徐々に僕は僕として認めてくれるようになりました。

そんな時、母に、

「でも決めつけはまた違うからね」

と言われました。

僕はどういう意味か分からず、もしかして僕自身が男だと決めつけていて、心の性別で過ごしたらきっと女性として過ごしたくなる。そう伝えたいのか?と解釈してしまい、怒りや、悲しみ、どん底に落とされたかのような感情が広がり、ついカッとなり怒鳴ってしまいました。

ですが本当に母が伝えたいことは違いました。

その事が分かったのは最近の事です。

母に自分の名前が嫌だと伝えた時です。少し母が黙り、シーンとした後こう母は言いました。

「あのね、今は蓮や、晴人とかって男ってイメージだけど昔は女の子ってイメージだったんだよ。とある有名になった人が蓮って名前で段々今のイメージが付いたんだよ。」

と教えてくれました。それに続き、

「名前はね、家族みんなで考えたから本音を言うと本当は変えてほしくない。本当に嫌になったら大人になって変えてほしい」

そう言われ、その時僕は気付きました。

僕自身が男らしさ、女らしさを押し付けていたことに。

思い返してみると、昔からピンクのスプーンやお椀などを避けていたことや、

これは女の子っぽいから嫌だな、等をしたり思っていることを思い出しました。

僕らしくを通りこして男らしさに囚われていたことを実感し、男らしさ、女らしさって関係ないよな、顔や性格が1人1人違うように、その人はその人だし、その人がどんな物が好きで、どんな物を取ろうと、着ようとしたって人は変わらないもんな、

と吹っきれると同時に母の言葉の理解、納得をしました。

なぜこんな簡単な事に気づくことが出来なかったのだろうか。

とても心が軽くなり、考え方や、気持ちが一気に変わったしゅんかんだった。

これからも母の1つの言葉を何倍にも増やしながら僕らしく、その人らしくを向き合い、大切にしていきたいです。